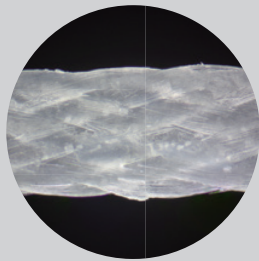


## 外傷歯の固定を 理想的に行える材料

材質はグラスファイバー（編み込み）とレジンです。  
症例としては舌側固定法（直接法/間接法）、  
テンポラリーブリッジ（直接法/間接法）、  
ブリッジのリテーナー補強、外傷歯の固定。  
一般的な動揺歯の固定にも有効です。



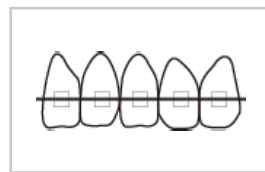
### 症 例



間接法による前歯  
テンポラリーブリッジ  
（直接法でも可能）



ブリッジの  
リテーナー補強



外傷歯の固定



舌側固定法（直接法）



舌側固定法（間接法）

## INTERLIG

インターリグ

一般名称：歯牙固定用補強材

医療機器分類：管理医療機器  
（クラスII）

認 証 番 号：229AGBZX00020000

寸 法：85×2.0×0.2（mm）

入 数：3本

標準価格：8,000円（税抜）  
8,800円（税込）

※仕様や外観および価格は製品改良のため予告なく変更することがございます。あらかじめご了承ください。（価格は2024年4月現在のものです）

● お問い合わせは下記まで

● 製造販売業：Angelus Japan株式会社 大阪府茨木市下穂積4-13-206

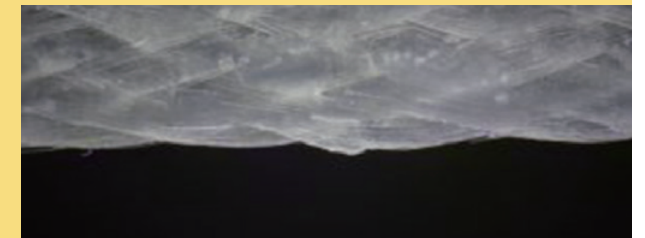
angelus<sup>®</sup>  
Japan  
072-657-7756

詳しい説明は以下の  
サイトからご覧ください。



## INTERLIG

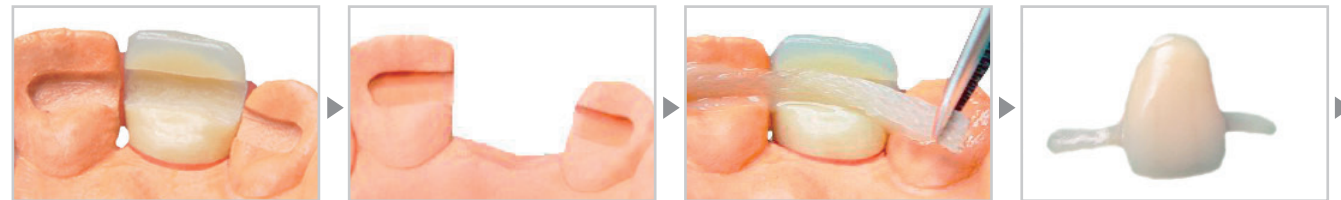
インターリグ



光重合コンポジットレジン含浸済み  
グラスファイバー繊維

angelus<sup>®</sup>  
Japan

症例 A 間接法による前歯テンポラリーブリッジ(直接法でも可能)



- 1 模型上で人工歯を試適します。
- 2 石膏模型に分離材を塗布し、よく乾燥します。
- 3 インターリグと人工歯を連結します。(フローレジンを用いても良い) 光照射し、硬化します。
- 4 模型からブリッジをはずし、ポンティック以外をサンドブラストします。

- 5 歯のグループ形成部をエッチング処理し、水洗、乾燥の後、ボンディング材を塗布します。(活性化はボンディング材の説明書を参照して下さい)
- 6 フローレジンを入れブリッジを装着したのち、さらにフローレジンで覆います。(形態修正は先の短い、平らなブラシを用いると綺麗に仕上がります)
- 7 光重合の後、形態修正し、仕上げ研磨します。

症例 B ブリッジのリテーナー補強



- 1 ブリッジのリテーナーを、通法に従って作成します。リテーナーの舌面(口蓋面)にグループ形成します。(幅2.0mm / 深さ0.8mm)
- 2 ボンディング材を塗布します。インターリグに必要な長さに切断し、フローレジンでグループ内にいれたのち、インターリグを挿入し、充填器等で圧接します。さらにフローレジンを填入したのち、形態修正します。



- 3 光重合ののち形態修正・研磨します。

症例 C 外傷歯の固定

〈参考資料〉日本外傷歯学会 歯の外傷治療ガイドラインより

外傷歯を固定するためには副子が必要となる。望ましい副子の条件は以下の通りである。



矯正力ではなく、受動的な力が作用する

ブラケットを用いてワイヤーで固定する場合は矯正力が働く。

生理的な動揺を許容する

金属線をダイレクトボンディングすると生理的な動揺を阻害する。

軟組織に影響を与えない

インターリグは歯肉に触れず、口唇についても為害性はない。厚さもわずか0.2mmである。

咬合に影響を与えない

ワイヤー不要でインターリグを歯の唇面に接着することで十分な強度が得られる。



歯内療法が行える

唇側、口蓋側を覆う物は無く、通法による歯内療法が行われる。

清掃性がよい

幅2.0mm・厚さ0.2mmのテープの薄さであり、歯頸部の清掃を妨げない。

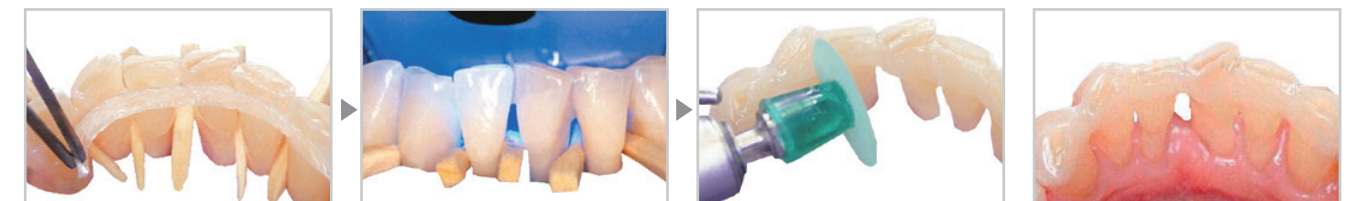
簡単に除去ができる

スケーラーやホワイトポイント等で簡単に除去できる。

症例 D 舌側固定法(直接法)



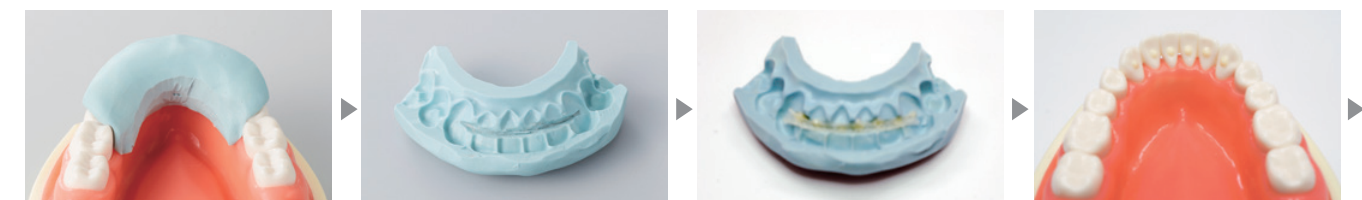
- 1 グループの形成(必要な場合)  
直径約2mmのダイヤモンドバー(ISO001/021)等にて幅約2mm 深さ約0.2mmのグループ形成を行います。
- 2 防湿および歯面清掃  
清掃は、フッ素無配合のペーストを用いて行います。
- 3 エッチング処理  
エッチャントを接着部位に塗布します。その後水洗し、充分に乾燥します。
- 4 光重合型コンポジットレジン(フローレジン)塗布



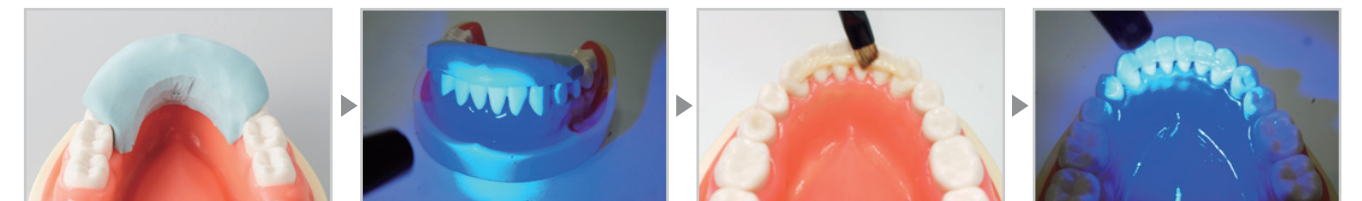
- 5 ボンディングテープの接着  
本材をコンポジットレジン上に圧接し、適当な器具を用いて歯間部に押し込みながら、歯牙の辺縁に適合させます。
- 6 光重合  
舌側と唇側から各々光照射します。1回20～40秒(波長域:470±30nm/光量:600mW以上)に適合させます。
- 7 本体表面にコンポジットレジン  
コンポジットレジン塗布後、毛の短い平らなブラシ等を用いて修正すると表面が滑らかになり、仕上げの時間を短縮できます。舌側と唇側から、各々光照射1回20～40秒します。(波長域:470±30nm / 光量:600mW以上)

症例 E 舌側固定法(間接法)

2017年6月 歯科医師 山本 幸夫



- 1 患部をヘビーボディーにて印象
- 2 ナイフにてインターリグ装着部をトリミング
- 3 インターリグをセット(この際、少量のフローレジンを用いると便利)
- 4 固定歯にも少量のフローレジンを歯面に点状に置く



- 5 パテを戻す
- 6 唇側より光照射
- 7 舌側にフローレジンを少量塗布し筆にて平滑化
- 8 光照射
- 9 研磨し完了

※上記は模型上で行った操作の写真的ため厚さを感じますが、臨床ではインターリグの厚さは0.2mmであり、はるかに薄く仕上がります。